

2021年 9月期 決算説明資料

2021年11月15日

株式会社ツナググループ・ホールディングス（証券コード 6551）



① 全体ハイライト	P.3
② 2021年9月期 連結決算概況	P.6
③ 2022年9月期 注力分野と業績予想	P.15
Appendix	P.23

① 全体ハイライト

2021年
9月期

実績

	通期累計		第4四半期（7-9月）	
売上高	110.2億円	YoY -8.9%	26.3億円	YoY+0.2%
営業利益	-1.0億円	YoY+5.0億円	0.5億円	YoY+2.5億円
EBITDA	2.7億円	YoY+4.4億円	1.4億円	YoY+2.1億円

決算概況

- ・売上高は110.2億円、営業損益は1億円と前期比で減収増益となる
- ・EBITDAは2.7億円と前期比で+4.4億円の伸長
- ・第4四半期は営業利益0.5億円と第3四半期に続き3Q連続の黒字決算

2022年
3月期

予想

売上高	110.0億円	YoY -0.2%
EBITDA	4.5億円	YoY+63.6%

予想の前提

経済活動の正常化が進むも、Withコロナでの下振れリスク等、未だ見通し不透明感が払拭されない状況であることから、前期第4四半期の実績をもとにした予想とする

2021年9月期は、下記の構造改革（レジリエンスプラン）により、収益力ならびに収益増を図った。コロナ禍の長期化により限界利益は微増であったが、固定費の削減は果たされ、構造改革については、FY21において一定の成果が見られた。

I. 事業再編ならびに組織再編（当期目論見 0.5億円）

グループ会社の再編、間接部門のHDへの統合などにより、FY21で**+0.5億円程度の収益増効果**があった

II. 限界利益率の向上（当期目論見 3億円）

限界利益率は、38.3%より42.2%（+3.9pts）に向上したが、新型コロナ影響により計画していた売上高に届かず、当期での**収益増効果は+0.5億円**と限定的であった

III. 固定費の削減（当期目論見 3億円）

働き方の変化に対応したオフィスの効率化、システムの統合、人材の直間比率の見直しなどにより、FY21での**固定費削減効果は+4.1億円**となった

※（ ）は、20年11月に公表した、FY21～FY22、2カ年での収益増効果見込
※限界増利益/固定費削減効果については、ツナグ・スタッフィング売却影響を除いた数値

② 2021年9月期 連結決算概況

2021年9月期 連結損益計算書

2021年9月期は前期比で減収増益となる。収益構造の改善により、営業損益は1億円となるもEBITDAは2.7億円まで伸長。第4四半期も黒字決算となり、3Q連続の黒字決算となった。

連結損益計算書

	FY21 通期 (百万円)	YoY (前年差) (百万円)	YoY (前年比)	Q 4 (百万円)	YoY (前年比)	QoQ (前Q比)
売上高	11,025	▲ 1,073	▲8.9%	2,632	+0.2%	+5.0%
原価	5,560	▲ 739	▲11.7%	1,203	▲13.3%	+1.2%
売上総利益	5,465	▲ 334	▲5.8%	1,429	+15.4%	+8.5%
販売管理費	5,570	▲ 839	▲13.1%	1,372	▲4.2%	+6.9%
広告宣伝費	926	▲ 242	▲20.7%	286	+30.0%	+24.9%
オフィス・償却費等	548	▲ 127	▲18.8%	118	▲26.3%	+3.5%
その他販売管理費	4,012	▲ 552	▲12.1%	966	▲8.0%	+3.0%
構造改革費用	82	+82				
営業利益	▲ 105	+505		56	(+ 250)	+69.7%
EBITDA*	275	+446		140	(+ 219)	+23.9%

*営業損益に減価償却費及びのれん償却費等を加算した調整後EBITDA

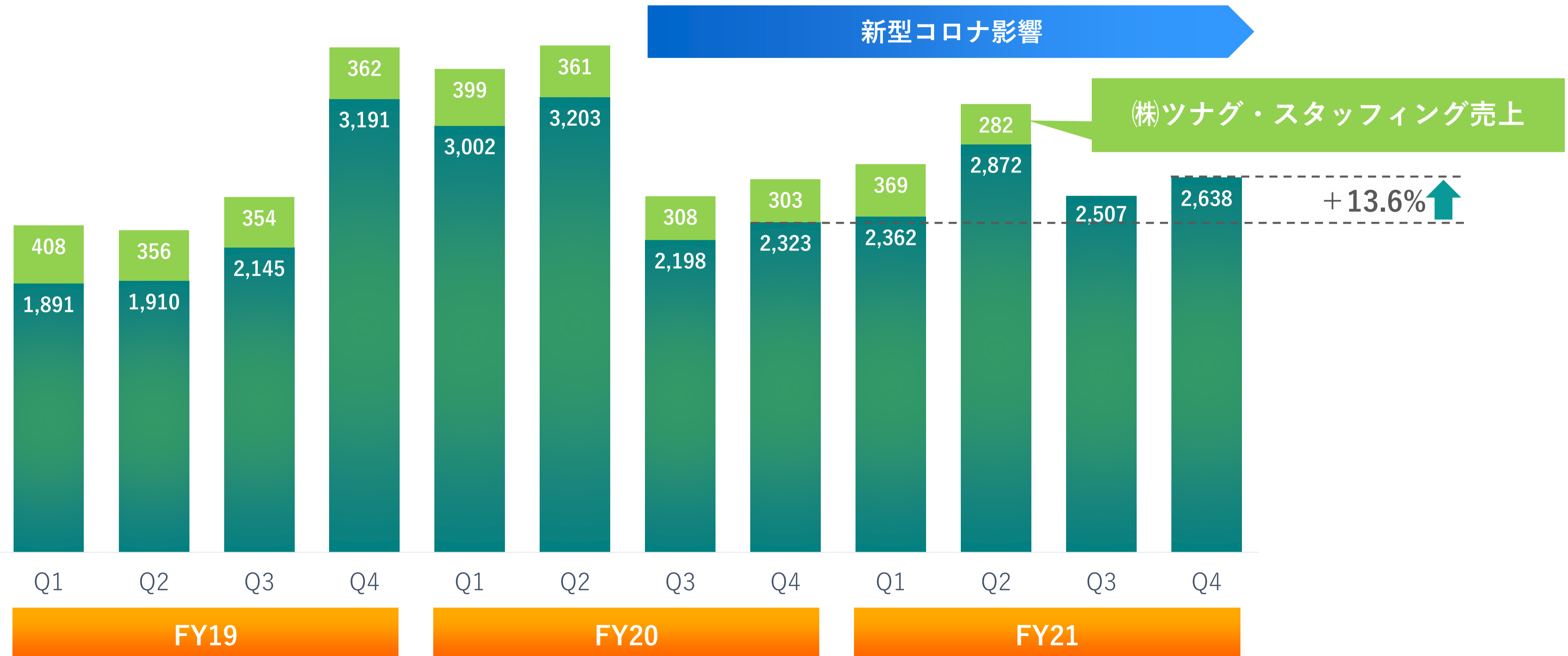
(注記) 株式会社ツナグ・スタッフィングの全株式の譲渡により、対象会社の決算は当第3四半期から連結対象外としております

連結売上高 四半期推移

売上高は四半期毎に回復が続いている。株式譲渡により当第3四半期から連結対象外とした(株)ツナグ・スタッフィングの売上を除くと第4四半期はYoY +13.6%の増収。

連結売上高/四半期推移

(百万円)

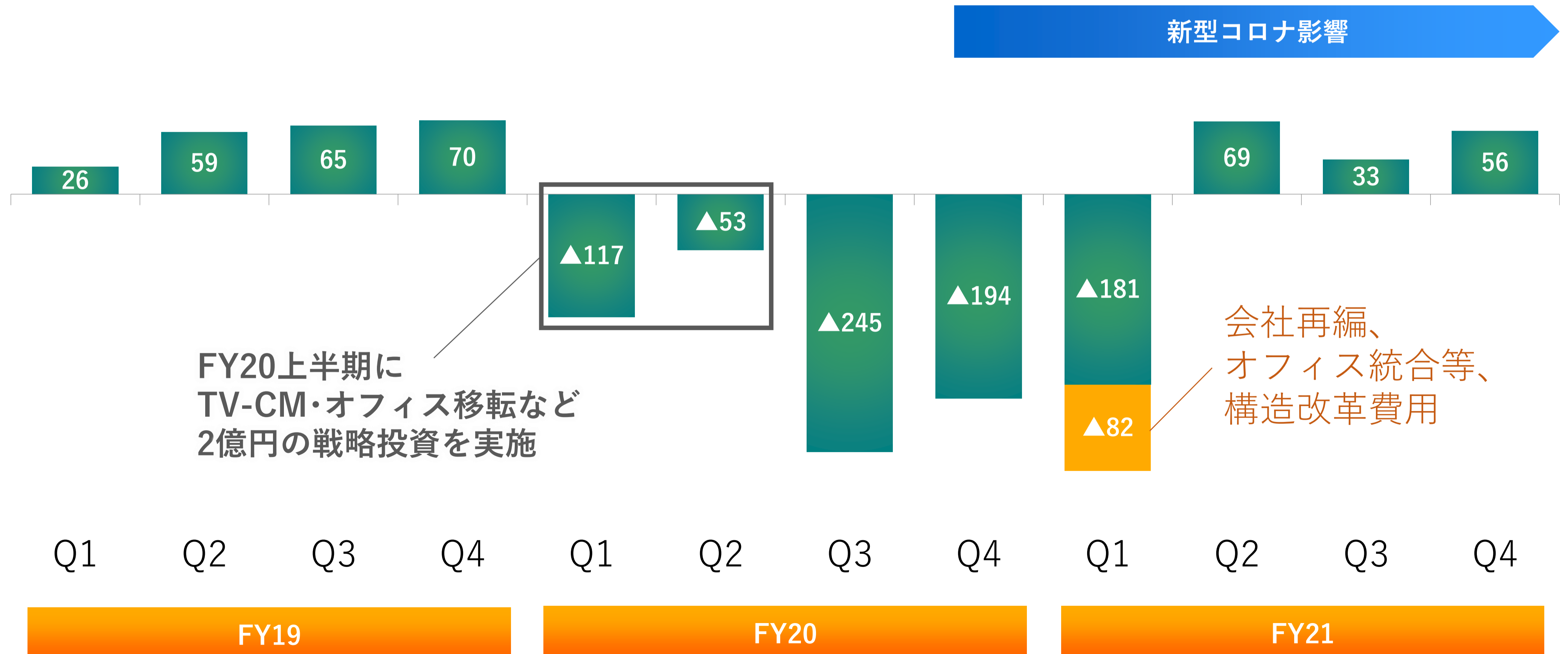


連結営業利益 四半期推移

収益構造の改善が進み、営業利益も回復基調。第4四半期の営業利益は56百万円となった。

連結営業利益/四半期推移

(百万円)



新株予約権発行による自己資本の増強もあり、純資産は前期末より120百万円増加。

連結貸借対照表

	20年9月末	21年9月末	増減
流動資産	2,336	2,148	▲ 187
固定資産	2,965	2,470	▲ 494
有形固定資産	248	208	▲ 39
無形固定資産	2,247	1,828	▲ 418
投資その他の資産	470	433	▲ 36
資産計	5,302	4,619	▲ 682
流動負債	2,489	2,280	▲ 208
固定負債	2,091	1,495	▲ 595
負債計	4,580	3,776	▲ 803
資本金等	860	1,197	+ 337
利益剰余金	▲ 96	▲ 309	▲ 212
自己株式・非支配株主持分等	▲ 41	▲ 45	▲ 3
純資産合計	721	842	+ 120

HRマネジメント事業

- RPO（採用業務支援）
- 人材定着支援
- 外国人採用
- 各種業務代行

メディア&テクノロジー事業

- セグメントメディア
- HRテクノロジー
- トータルソリューション

スタッフィング事業

- 人材派遣・人材紹介
- コンビニ店舗運営

HRマネジメント事業においては、通期売上高は▲2.9%の減収となるも、Q3は前年+8.0%、Q4は+18.3%の増収に転じており、回復基調。

- RPO（採用業務支援）領域では、主要顧客である外食・サービス業を中心に採用活動の抑制が続き売上高が減少するも、新規顧客の獲得や採用再開の動きもあり、下半期は回復に転じた
- 外国人採用領域は外国人渡航制限の影響が続き売上高が減少、業務代行領域は堅調に推移

	FY21 累計 (百万円)	YoY (増減額)	Q1 (百万円)	YoY (増減額)	Q2 (百万円)	YoY (増減額)	Q3 (百万円)	YoY (増減額)	Q4 (百万円)	YoY (増減額)
売上高	3,220	▲2.9%	623	▲30.5%	1,024	▲0.2%	784	+8.0%	788	+18.3%
セグメント利益	▲62	(+22)	▲111	(▲108)	113	(+86)	▲22	(+40)	▲41	(+5)

メディア&テクノロジー事業においては、通期売上高は▲2.9%の減収となるも、Q4もQ3同様に売上高が前年比で+20%以上の増収、セグメント利益もプラスに転じました。

- セグメントメディア領域では、短期単発求人『ショットワークス』を中心に売上が回復。
- HRテクノロジー領域では、DXリクルーティングサービスである『Find in (ファインドイン)』が伸長。

	FY21 累計 (百万円)	YoY (増減額)	Q1 (百万円)	YoY (増減額)	Q2 (百万円)	YoY (増減額)	Q3 (百万円)	YoY (増減額)	Q4 (百万円)	YoY (増減額)
売上高	6,122	▲2.9%	1,354	▲25.5%	1,578	▲16.7%	1,523	+22.8%	1,665	+23.0%
セグメント利益	▲59	(+246)	▲89	(▲25)	▲17	(+10)	▲15	(+110)	63	(+151)

スタッフィング事業

スタッフィング事業においては、(株)ツナグ・スタッフィングの売却により、通期売上高は▲12.3%の減収となるも、売却後のQ3以降はセグメント損失は解消されている。

- コンビニ領域では、ニューノーマル下での中食需要に対応した売り場展開等による日販の回復により前年同期比でおよそ2割の増収。

	FY21 累計 (百万円)	YoY (増減額)	Q1 (百万円)	YoY (増減額)	Q2 (百万円)	YoY (増減額)	Q3 (百万円)	YoY※ (増減額)	Q4 (百万円)	YoY (増減額)
売上高	2,810	▲12.3%	914	+7.3%	797	▲4.1%	534	▲26.6%	563	▲28.7%
セグメント利益	▲46	(+91)	▲7	(+29)	▲40	(▲2)	0	(+40)	0	(+22)

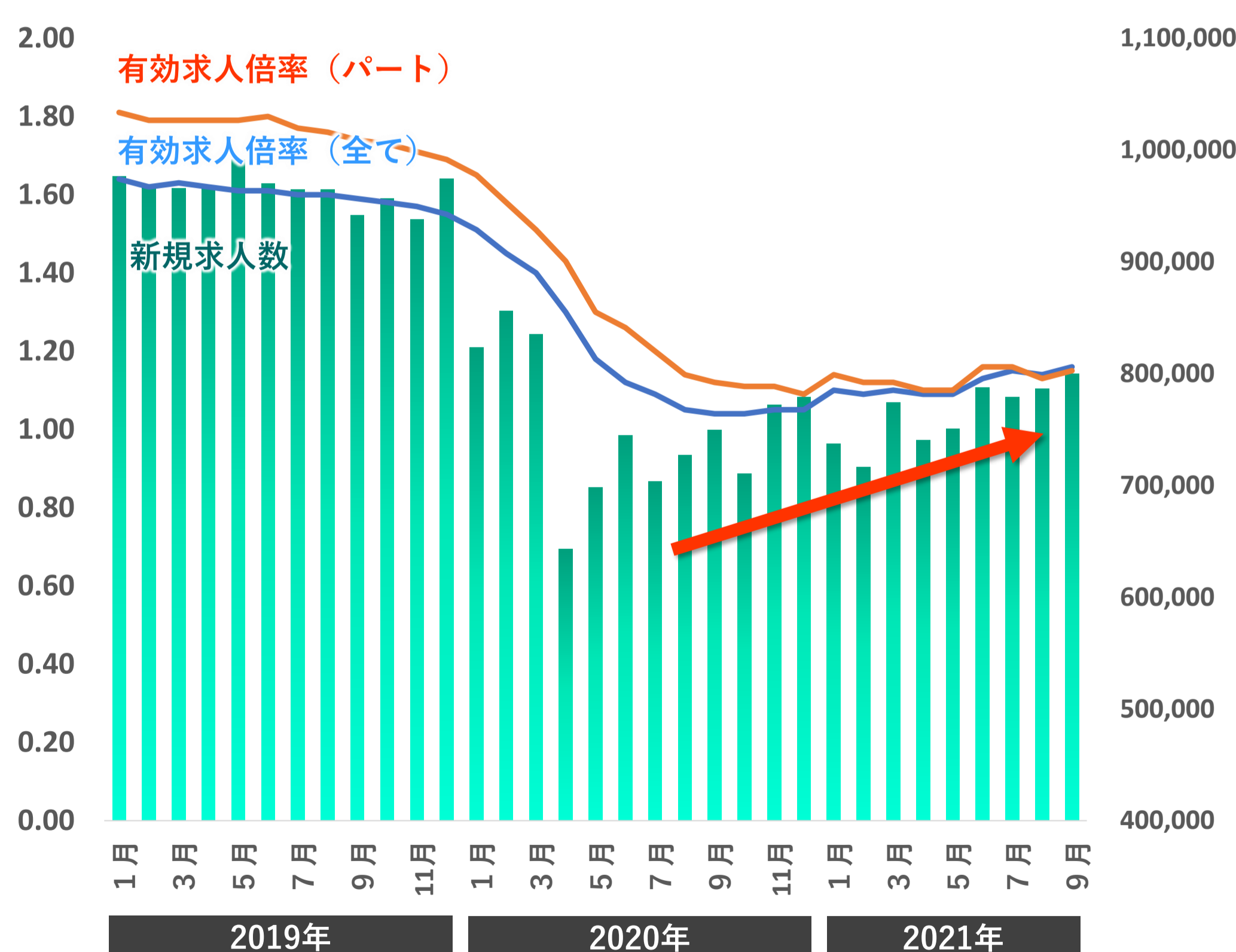
(注記) 株式会社ツナグ・スタッフィングの全株式の譲渡により、対象会社の決算は当第3四半期から連結対象外としております。

③ 2022年9月期注力分野と業績予想

国内の雇用情勢は緩やかに改善も、本格回復はこれから

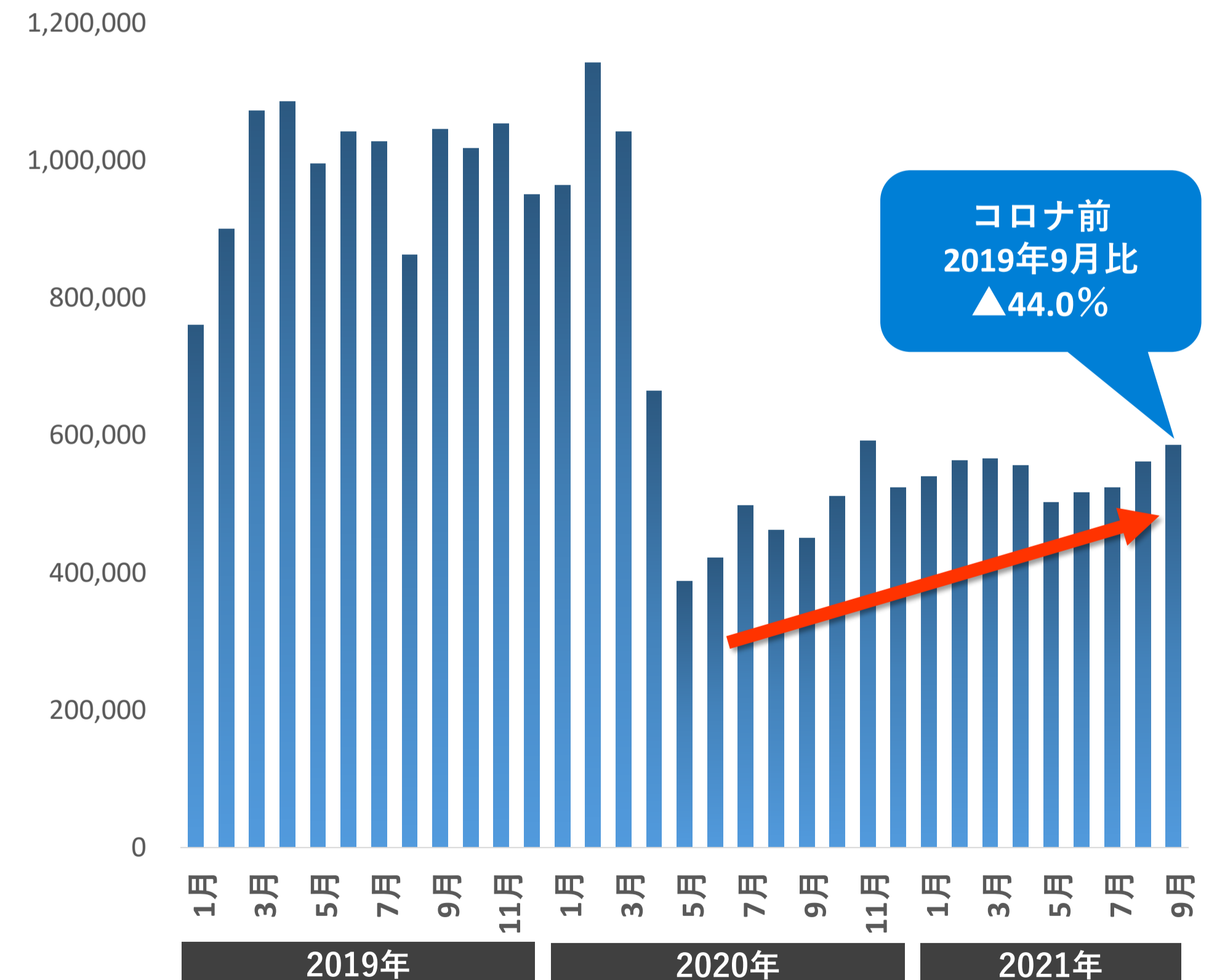
新型コロナワクチン接種の進展により段階的に活動制限の緩和が進み、求人数は緩やかに増加も、2021年9月におけるアルバイト・パートの求人件数はコロナ前と比べ44%減の状況。

有効求人倍率・新規求人数



出典：厚生労働省「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」

アルバイト・パート求人件数



出典：公益社団法人全国求人協会「調査発表/求人広告掲載件数」

事業効率と事業シナジーを高めるための組織再編

グループ会社10社で運営していた主たる事業を2社 + 戦略子会社に再編統合
それぞれの事業会社が持つ多様な経営資源を集約し、事業効率と事業シナジーの最大化を狙う。

FY21

経営管理	(株)ツナググループ・ホールディングス
採用業務支援 (RPO)	(株)ツナグ・ソリューションズ
採用コンサルティング	(株)ツナググループ・マーケティング
雇用・採用改革支援	(株)ツナググループ・イノベーションズ
人材募集支援	(株)ツナグ・マッチングサクセス
人材定着・活躍支援	(株)テガラミル
開発	(株)ツナググループ・テクノロジーズ
その他	他子会社 (3社)

FY22～



強化する事業領域

緩やかに改善が進む日本国内の雇用情勢において、コロナ禍による「就業者・求職者の働き方に対する意識の変化」及び「企業の採用手法の変化」による雇用の流動性の高まりを見据え、当社グループはより需要の高まる2つの事業領域に経営資源を注力いたします。

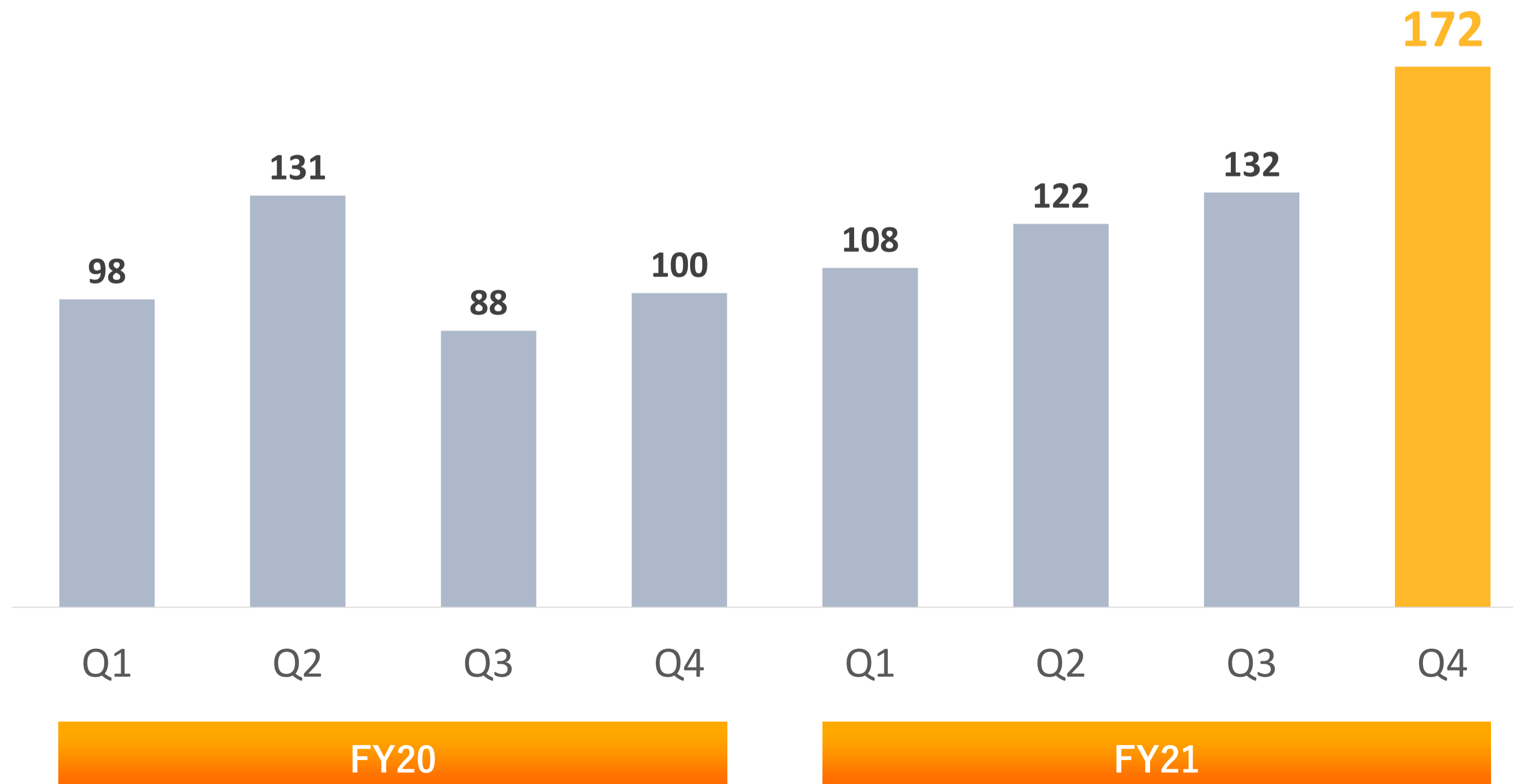
① DXリクルーティング事業

② 短期単発雇用（スポットワーク）事業

① DXリクルーティング事業への注力

- ✓ Webプロモーションから応募管理までをトータルサポートするDXリクルーティングサービス『Find in』は、コロナ禍においても回復が早く、Q4は大幅に延伸。
- ✓ DXリクルーティング事業への注力を推し進め、当社グループが持つ「求人ノウハウ」と「求職者のビッグデータ」を活用することで、成長スピードをさらに加速する。

DXリクルーティング『Find in』プロジェクト数推移



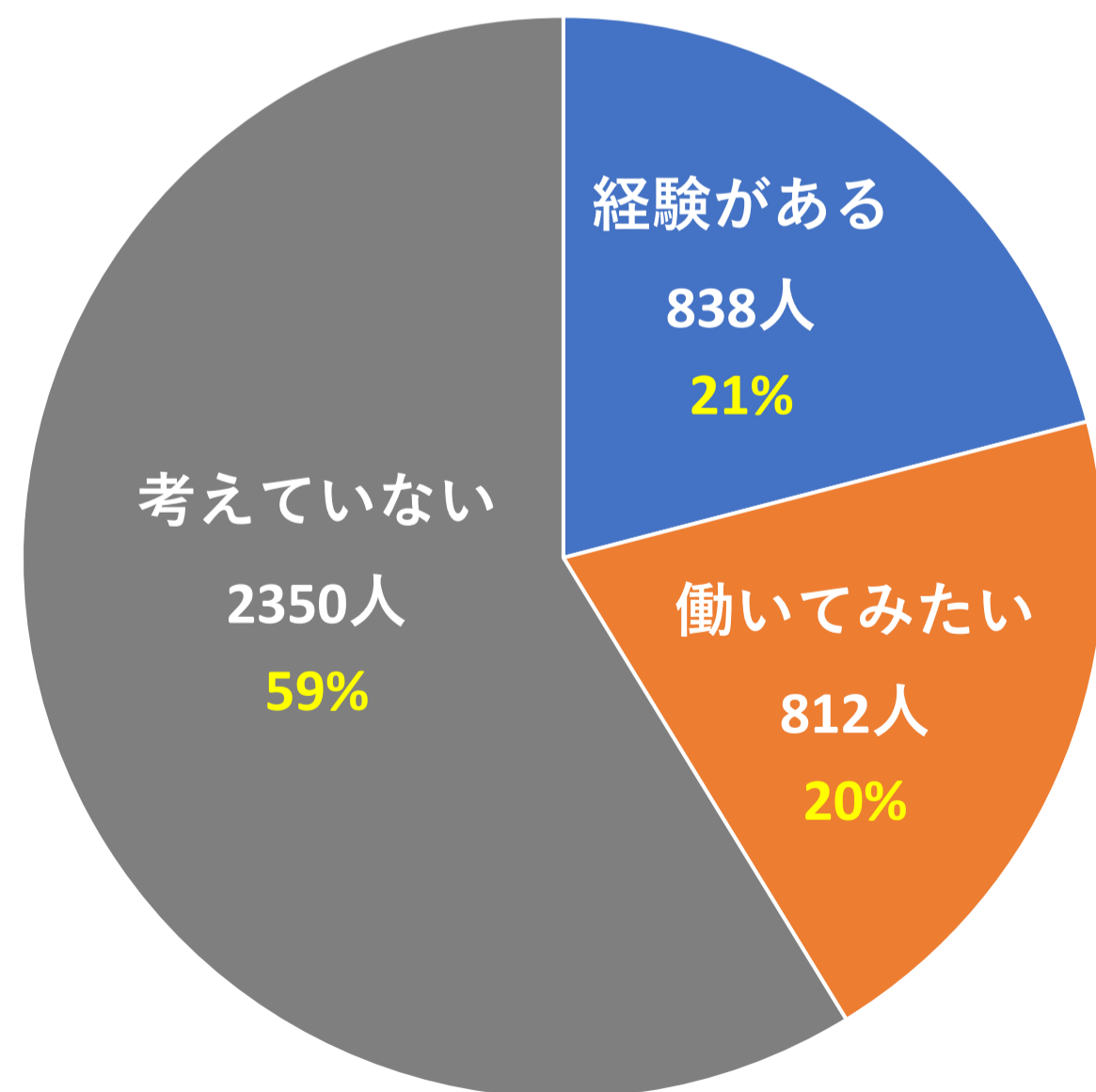
② 短期単発雇用（スポットワーク）事業への注力

- ✓ 新しい働き方であるスポットワークに注目が集まっており、正規雇用労働者のうち600万人以上*が副業としてのスポットワーク経験がある。2割の人がスポットワークで働いた経験があり、さらに2割の人が今後「働いてみたい」と考えており、今後も増加が続くと予想される。

*ツナグ働き方研究所による推計

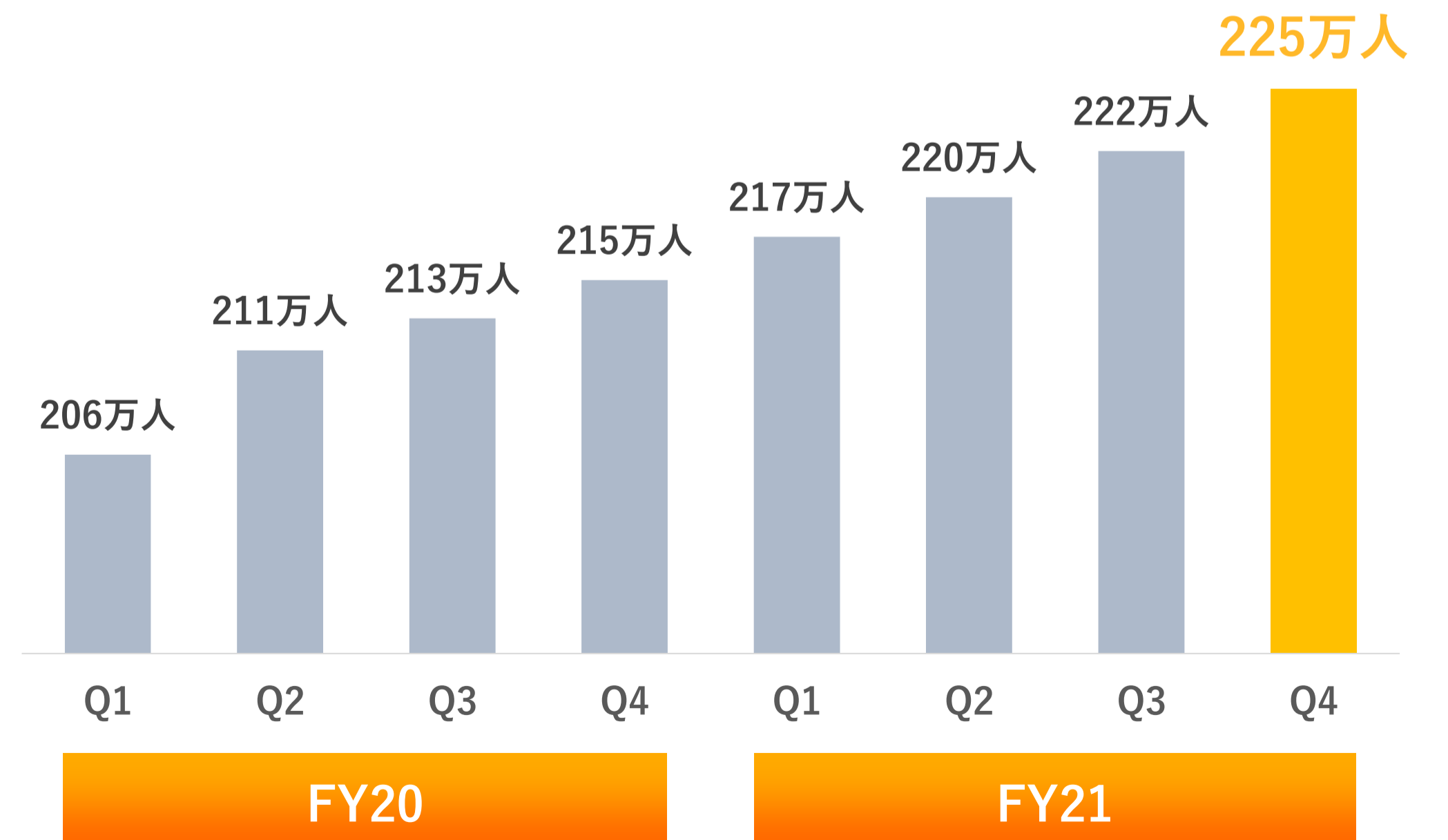
- ✓ 当社が運営する短期単発求人サイト『Shotworks』の登録者数は225万人。コロナ禍でも増加が続く。
- ✓ 今後、さらなる需要の増加が見込まれるスポットワーク事業に注力し、短期単発雇用の拡大を牽引する。

スポットワーク就業意向調査
(4000人アンケート)



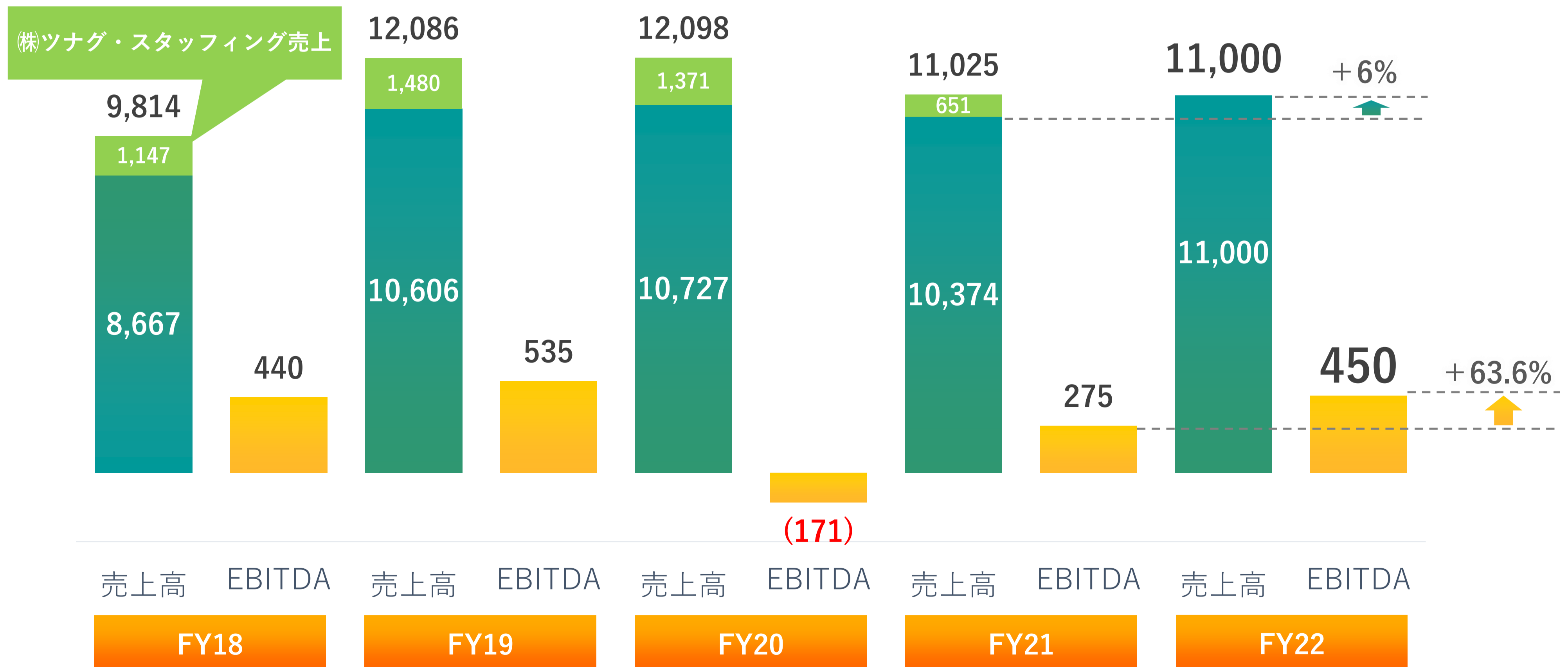
出典：ツナグ働き方研究所「スポットワーク調査」

短期単発求人サイト「Shotworks」
登録ユーザー数推移



2022年9月期 連結業績予想サマリ

FY22の業績予想は、経済活動の正常化が進むも、Withコロナでの下振れリスク等、未だ見通し不透明感が払拭されない状況であることから、前期第4四半期の業績を基準とした予想に対し、成長事業への人的投資を読み込み、売上高110億円、EBITDA*4.5億円とする。



*営業損益に減価償却費及びのれん償却費等を加算した調整後EBITDA

(注記) 株式会社ツナグ・スタッフィングの全株式の譲渡により、対象会社の決算は当第3四半期から連結対象外としております。

2022年9月期 連結業績予想と配当予想

■連結業績予想

2022年9月期の業績予想は、売上高110.0億円、EBITDA*4.5億円とします。

	FY21 (百万円)	FY22 (百万円)
売上高	11,025	11,000
EBITDA	275	450

*営業損益に減価償却費及びのれん償却費等を加算した調整後EBITDA

■配当予想

当社は、株主の皆様に対する利益還元を重要課題としており、成長投資の原資を確保した上で、業界平均の配当性向を継続的に行うことを基本方針としております。

2022年9月期の配当予想につきましては未定とさせていただきますが、新型コロナウイルス感染症による業績影響を見定めた上で、改めて開示いたします。

	FY21	FY22
配当	無配	未定

Appendix

社名	株式会社ツナググループ・ホールディングス
設立	2007年2月28日
資本金	520,120千円（2021年9月末時点）
所在地	東京都千代田区神田三崎町3丁目1-16 神保町北東急ビル1F・2F
代表者	代表取締役社長 米田 光宏
従業員数	641名（正社員524名、契約社員34名、パートタイム社員83名） / 2021年9月末時点 グループ合計
上場市場	東京証券取引所 市場第一部（証券コード：6551）



代表取締役社長

よねだ みつひろ
米田 光宏

1969年生 大阪府出身

1993年

株式会社リクルートフロムエー
(現株式会社リクルート)入社

営業、商品企画、営業企画などを担当

2003年

株式会社リクルート
(現株式会社リクルートホールディングス)出向

マーケティング業務などを経て
アルバイト・パート領域の事業企画責任者

2007年

株式会社ツナグ・ソリューションズ設立

私たちは「採用市場におけるインフラ企業」を目指し、
M & A や事業会社設立を積極的に展開してまいりました。

- 2007年2月 設立
- 2007年3月 創業「RPOサービス開始」
- 2013年11月 株式会社テガラミルを子会社化
- 2015年3月 株式会社インディバルの全発行株式をヤフー株式会社より取得
- 2015年4月 株式会社チャンスクリエイター設立
- 2016年8月 株式会社スタッフサポーター設立
- 2017年6月 東証マザーズ市場に株式上場
- 2017年9月 株式会社asegoniaを子会社化
- 2018年1月 株式会社スタープランニングを子会社化
- 2018年7月 東証市場第一部に市場変更
- 2018年10月 Regulus Technologies株式会社を子会社化
- 2019年6月 ユメックス株式会社を子会社化
- 2019年10月 株式会社ツナググループ・マーケティング設立
- 2020年4月 株式会社GEEKを子会社化
- 2021年1月 グループ会社を再編統合
- 2021年6月 株式会社ツナグ・スタッフィングの全発行株式を譲渡
- 2021年10月 グループ子会社の再編統合を行い、株式会社ツナググループHC発足

免責事項および将来見通しに関する注意事項

免責事項

- この資料は皆様の参考に資するため、株式会社ツナググループ・ホールディングス(以下「当社」という)の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。

IR関係のご質問・お問合せは、こちらまでお願いいたします

株式会社ツナググループ・ホールディングス／IR担当

TEL：03-3569-2790（受付時間 平日 11：00～17：00）

MAIL： ir@tsunagu-grp.jp

お問合せフォーム： <https://tghd.co.jp/ir/inquiry/>

※お問合せがございましたら弊社ホームページのお問い合わせフォーム、もしくはメールにてご連絡いただきますよう、お願い申し上げます。